

## うしおだ介護職員初任者研修（通学）カリキュラム（講師用・要員）

事業者名 社会福祉法人うしおだ

研修事業の名称 介護職員初任者研修（通学）

1 職務の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスの理解	2時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像を予めイメージできるようにします。</li> <li>・学習内容を体系的に整理し、知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を行います。</li> <li>・介護職が働く現場の介護保険サービスと介護保険外サービスを理解します。</li> </ul>
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職が働く現場や仕事内容を理解します。</li> <li>・視聴覚教材等を活用し、居宅や施設の実際のサービス提供現場を具体的にイメージします。</li> <li>・ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れを理解します。</li> <li>・チームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携を理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が住む地域のサービス提供事業所や特定施設、介護保険施設等の実際のサービス提供現場を調べておき、それを踏まえて5名×4グループになり、サービス提供の実際や社会資源の活用などについて、グループ討議を行います。</li> </ul>
合計	6時間	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①人権と尊厳を支える介護	6時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考え、尊厳という概念を理解します。</li> <li>・虐待を受けている高齢者への対応方法について学習し、高齢者虐待に対する理解を深めます。</li> <li>・介護分野におけるICFを理解します。</li> <li>・QOLの考え方、ノーマライゼーションの考え方を理解します。</li> <li>・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業などの個人の権利を守る制度について学習します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5名×4グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：介護におけるICF、介護職に求められるもの、ノーマライゼーションを実現するには】</li> </ul>
②自立に向けた介護	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援や介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念を理解します。</li> <li>・利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアを理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5名×4グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：残存能力の活用、介護予防は寝たきり予防】</li> </ul>
合計	9時間	

3 介護の基本 (6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の目指す基本的なものは何かを概説できるようにします。</li> <li>・家族による介護と専門職による介護の違いを理解します。</li> <li>・介護の異なる専門性を持つ多職種を理解するとともに、それらとの連携を理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5名×4 グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：利用者の状況を総合的な視点でとらえる、家族による介護と専門職による介護の違い】</li> </ul>
②介護職の職業倫理	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の職業倫理の実用性を理解するとともに、介護職が利用者や家族等との関わる際の留意点も理解します。</li> <li>・介護職としての社会的責任を理解します。</li> <li>・プライバシーの保護や尊重について学習します。</li> </ul>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクについて学習します。</li> </ul>
④介護職の安全	1 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方について学習します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5名×4 グループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：介護職に起こりやすい健康障害】</li> </ul>
合計	6 時間	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設の背景および目的、動向を理解します。</li> <li>・介護保険制度の仕組みや制度を支える財源、組織や団体の機能と役割を理解します。</li> <li>・予防重視型システムへの転換、地域包括ケアシステムの推進といった介護保険制度の新しい方向性を理解します。</li> </ul>
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医行為の考え方、とりわけ一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為等について学習します。</li> <li>・施設における看護と介護の役割や連携を理解します。</li> <li>・リハビリテーションの理念を理解します。</li> </ul>
③障害福祉制度及びその他制度	3 時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉制度の理念を理解します。</li> <li>・障害者自立支援制度の仕組みを理解します。</li> <li>・個人情報保護法、成年後見制度、日常生活自立支援事業などの個人の権利を守る制度の概要について学習します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“福祉サービスの質の向上に向けて” “施設や福祉現場の環境で気をつけたこと” “苦情に対する対応について” 5名×4 グループになり討論を行います。</li> </ul>
合計	9 時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護におけるコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について学習します。</li> <li>・共感、受容、傾聴的態度、気づき等の基本的なコミュニケーションについて学習します。</li> <li>・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由を理解するとともに、相手の心身機能に合わせた配慮の必要性も理解します。</li> <li>・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2名1組になり、次の事例に基づくロールプレイを行います。【事例：傾聴、共感、視覚障害、聴覚障害、失語症、構音障害、認知症】</li> </ul>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録における情報の共有化の必要性を理解します。</li> <li>・報告、連絡、相談の留意点を理解します。</li> <li>・コミュニケーションを促す環境づくりの重要性を理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の事例に基づき具体的な記録方法を行います。【事例：①「よりよい介護サービスの提供」という目的のための記録の書き方、②「事実」を記録に書く方法】</li> </ul>
合計	6時間	
6 老化の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢や老化に伴う生理的な変化や特徴を理解します。</li> <li>・社会面、身体面、精神面、知的能力面等の変化に着目した心理的特徴を理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2名1組になり、高齢者・障害者疑似体験グッズを用いてこころとからだの変化の学習を行います。</li> </ul>
②高齢者と健康	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の疾病と生活上の留意点を理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に多い疾病の種類を調べ、併せてその症状や特徴および治療・生活上の留意点も調べ、学習を深めます。</li> </ul>
合計	6時間	
7 認知症の理解（6時間）		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①認知症を取り巻く状況	1時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの理念を理解します。</li> <li>・できることに着目した認知症ケアの視点について学習します。</li> </ul>
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理について学習します。</li> </ul>

③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2 時間	《講義内容》 ・認知症の人の生活障害、心理や行動の特徴を理解します。 ・認知症の利用者への対応について学習します。 《演習内容》 ・2名1組になり、認知症の利用者との具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）や対応方法のロールプレイを行います。
④家族への支援	1 時間	《講義内容》 ・認知症の受容過程での援助や介護負担の軽減（レスパイトケア）について学習します。
合計	6 時間	

## 8 障害の理解（3時間）

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①障害の基礎的理解	1 時間	《講義内容》 ・障害の概念と I C F について学習します。 ・障害者福祉の基本理念を理解します。
②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	《講義内容》 ・身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害について学習します。 ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点を理解します。 《演習内容》 ・2名1組になり、障害（身体障害、知的障害、精神障害、その他の心身の機能障害）を持つ利用者との具体的な関わり方や対応方法のロールプレイを行います。
③家族の心理、かかわり支援の理解	1 時間	《講義内容》 ・家族への障害の理解や障害の受容支援、介護負担の軽減について学習します。
合計	3 時間	

## 9 こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）

基本知識の学習	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
	①介護の基本的な考え方	4 時間	《講義内容》 ・ I C F の視点に基づく生活支援、我流介護の排除等、理論に基づく介護と法的根拠に基づく介護について学習します。
	② (1) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2 時間	《講義内容》 ・学習と記憶、感情と意欲の基礎知識について学習します。 ・自己概念と生きがいを理解します。 ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因を理解します。 ・こころの持ち方が行動に与える影響とからだの状態がこころに与える影響を理解します。
	② (2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2 時間	
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4 時間	《講義内容》 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について学習します。 ・骨や関節や筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用について学習します。 ・中枢神経系体性神経、自律神経と内部器官に関する基礎知識について学習します。 ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点を理解します。 《演習内容》 ・2名1組になり、片麻痺を想定して体温・呼吸・脈拍のはかり方を行います。

生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援について学習します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家事援助に関した生活支援：(1)介護保険制度における家事援助[身体介護と生活援助を一体的にとらえる視点、自立に向かう気持ちを支える、家事援助を通じたかかわり方のポイント] (2)家事援助の技術[掃除、洗濯、衣類の整理、衣類の補修、買い物、調理]</li> <li>・2名1組になり、ともに行う家事援助が利用者の自立支援につながり、利用者の主体性を引き出し、日々の暮らしに潤いがもてるようになる支援のあり方考えながら、ロールプレイを行います。</li> </ul>
	⑤快適な居住環境整備と介護	3時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な居住環境に関する基礎知識について学習します。</li> <li>・高齢者や障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法を理解します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・障害者特有の住環境整備 [バリアフリーデザインとユニバーサル、人との交流、地域とのつながり、住宅メニューと住宅政策、住宅内事故、避難経路の確保と防災設備、地域の環境づくりとまちづくりの視点] について5名×4グループになり、グループでの討論を行います。</li> <li>・福祉用具に関する留意点と支援方法：(1)住宅改修と福祉用具 (2)福祉用具の定義と対象品目 (3)福祉用具の利用</li> </ul>
	⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について学習します。</li> <li>・身体状況に合わせた衣服の選択や着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義や効果について学習します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・整容の支援技術：(1)洗髪 (2)整髪 (3)化粧 (4)ひげそり (5)爪切り (6)衣服の着脱 (7)安楽で心地よい衣服の着脱介助の実際[事前の留意点、着脱介助の方法と留意点、着脱介助後の留意点、障害に応じた衣服着脱の介助]</li> <li>・2名1組になり、安楽で心地よい衣服の着脱の介助を行います。</li> </ul>
	⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間	<p>《講義内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動や移乗に関する基礎知識、さまざまな移動や移乗に関する用具とその活用方法、利用者や介助者にとって負担の少ない移動や移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について学習します。</li> </ul> <p>《演習内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな移動・移乗に関する道具とその活用方法：(1)杖 (2)車いす[車いす介助時の留意点、車いすの種類] (3)スライディングシート</li> <li>・2名1組になり、上記の道具を活用して移動・移乗の介助を行います。</li> <li>・移動を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：(1)歩行[つたい歩き、杖歩行] (2)移乗[一部介助] (3)体位変換[全介助の場合] (4)ベッド上での水平移動の介助[全介助の場合] (5)ベッド上での上方移動の介助[全介助の場合] (6)ベッドからの起き上がりの介助 [全介助の場合] (7)ベッドから車いすの移乗介助 [全介助の場合] (8)車いすから便座への移乗介助 [全介助の場合] (9)ベッドからストレッチャーへの移乗介助 [全介助の場合]</li> <li>・移動と社会参加の留意点と支援：(1)心身機能の低下を防ぎ、生きる意欲を引き出す支援 (2)外出介助のためのアセスメント (3)電車やバス、リフトカーなどによる外出 (4)視覚障害者への歩行介助 (5)自家用車への移乗</li> </ul>

<p>⑧食事に関連した ところとからだの しくみと自立に向 けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》 ・食事や口腔ケアに関する基礎知識、食事環境の整備や食事に関連した用具や食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について学習します。 《演習内容》 ・福祉用具や食器の活用方法 ・2名1組になり、片麻痺を想定して給食で準備した食事をうい食事の介助を行います。 ・食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：(1)食事介護の留意点と支援方法[事前のかかわり方、食事前のかかわり方、食事中のかかわり方、食後のかかわり方] (2)臥床状態での片麻痺利用者の介助 (3)視覚障害者の介助 (4)認知症の利用者の介助 (5)経管栄養の利用者の介助 ・口腔ケア：(1)口腔ケアの方法と留意点 (2)義歯の洗浄と保管</p>
<p>⑨入浴、清潔保持 に関連したところ とからだのしくみ と自立に向けた介 護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》 ・入浴や清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学習します。 《演習内容》 ・入浴用品と整容用具の活用方法：(1)福祉用具を活用した入浴の介助 (2)歩行・洗体自立レベル (3)座位がとれる場合 (4)座位がとれない場合 ・実際に浴槽へ湯を溜め、2名1組になり水着などを着用して入浴の介助を行います。 ・入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：(1)入浴を阻害するところの要因 (2)入浴を阻害するからだの要因 (3)安全で心地よい入浴介助の基本的な留意点 (4)身体の清潔介護[シャワー浴、清拭、足浴、手浴、洗髪、細部の清潔、陰部洗浄] ・2名1組になり、ベッド上での洗髪、座位での手浴・足浴の清潔介護を行います。</p>
<p>⑩排泄に関連した ところとからだの しくみと自立に向 けた介護</p>	<p>6 時間</p>	<p>《講義内容》 ・排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学習します。 《演習内容》 ・排泄環境整備と排泄用具の活用方法：(1)排泄環境 (2)排泄に使用する用具[ポータブルトイレ、便尿器、おむつ] ・2名1組になり、ベッド上でおむつ交換の介助を行います。 ・排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：(1)排泄のアセスメント[排泄行動のプロセス、排泄介助の留意点] (2)安全で快適な排泄介助の実際[トイレでの排泄介助、ポータブルトイレにおける排泄介助、便器・尿器での排泄介助、おむつ交換の介助]</p>
<p>⑪睡眠に関連した ところとからだの しくみと自立に向 けた介護</p>	<p>4 時間</p>	<p>《講義内容》 ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学習します。 《演習内容》 ・睡眠環境と用具の活用方法：(1)安眠ケアの基本的留意点 (2)安眠への支援の実際[本人の満足感を重視する、入眠環境を整える、入眠への準備] ・睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法：(1)不眠とその特徴 (2)睡眠を阻害する要因 (3)ところとからだのしくみからみた安眠のための介助の工夫[足浴や入浴、温かい飲み物、音楽、マッサージ、褥瘡予防] ・5名×4ループになり、次の事例に基づく討議を行います。【事例：介護老人保健施設に入所して2週間が経過して、ここ数日よく眠れていない方への対応】(略) ・5名×4グループになりベッド4台に分かれ、腰痛を予防するためにボディメカニクスを意識して、負担のかからないからだの使い方を習得するとともに、ベッド上に人がいない場合やベッド上に人がいる場合において、敷きシーツの交換を一人でやるベッドメイキング手順を習得します。</p>

	⑫死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3 時間	《講義内容》 ・終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援について学習します。 《演習内容》 ・“終末期から死までの身体機能の変化について、状況に合わせた対応”、“死に直面したときの人の心理状況について、ところの変化の受け止め方”について5名×4グループになり、グループでの討論を行います。
生活支援技術演習	⑬介護過程の基礎的理解	2 時間	《講義内容》 ・介護過程の目的と意義、展開について学習します。 ・介護過程におけるチームアプローチの重要性について学習します。 《演習内容》 ・5名×4グループになり、次の事例の介護過程とチームケアにおける介護職の役割について討議を行うとともに、介護計画の立案を行います。【事例：夫と2人で暮らしているAさん（脳梗塞の後遺症のため片麻痺あり）】
	⑭総合生活支援技術演習	12 時間	《講義内容》 ・睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法について学習します。 《演習内容》 ・高齢の3事例を用い、生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を行います。5名×4グループになり、全員が全事例の演習を行います。 ○想定事例1 食事（食卓の椅子に座っており、状態を観察し、食事の介助をします）、口腔ケア（食後に食卓から洗面所まで移動し、口腔の清潔の介助をします） ○想定事例2 整容（外出準備のため椅子に座っており、上着の着用と身だしなみの介助をします）、移動（T字杖を使って3動作歩行の介助をし、ベンチに腰かけるまでの介助をします） ○想定事例3 移乗・排泄（トイレに行くため、ベッドから車いす、車いすから便座へ移乗し排泄の介助をします） ※本科目の⑥～⑩の内容における各技術の演習および⑭総合生活支援技術演習においては、一連の演習を通じて技術度合いの評価を行います。 ※本科目の⑥～⑩の内容においても、⑭総合生活支援技術演習で選択する高齢の3事例と同じような事例を共通して用い、その支援技術を適用する考え方の理解と技術の習得を目指します。 ※総合生活支援技術演習計画書（別添様式5）を参照”
実習		6 時間	《実習内容》 ・訪問介護事業所において、サービスを提供するホームヘルパーに同行し、身体介護と生活援助の実習を実施します。
	合計	75 時間	
10 振り返り（4時間）			
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法	
①振り返り	1 時間	《講義内容》 ・研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような訪問介護事業所における事例を体験します。 《演習内容》 ・実際に働く訪問介護員からの話を基に討論へ参加します。訪問介護の業務をイメージできるようにします。	
②就業への備えと研修修了後における継続的な研修	3 時間	《講義内容》 ・本研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことについて研修全体を振り返ります。 ・根拠に基づく介護についての要点を確認します。	
合計	4 時間		
全カリキュラム合計時間		130 時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、科目名の前に「追加」と表示すること。